ゆずりはの森から

第151号
2015年11月1日発行

NPO法人
ゆずりは学園

小学生
中学生
高校生
大学生
社会人

乗りたくても乗れない ぐるりんバスと スクールバス「ゆずりは号」

田原駅に行かないバスが
10月1日から学園の前を1日14便走っている

豊橋方面から、渥美方面からとレポートの期限近くになった10月は、毎回30人くらいの高校生、フリースクールの子ども達が登校してきます。学園では16歳以上になれば、バイク通学も認めています。18歳になれば、車での通学も可能です。

しかし、JR線、名鉄線、飯田線などから豊橋鉄道線に乗り継ぎ、田原駅まで来て、コミュニティーバスに乗り換え、18分で学園に着いたのが、駅からコミュニティバスに38分乗り、さらに3つ前のバス停で下車。そこから海岸線を60分かけて歩いて学園まで通う子ども達、生徒の登校の日々に、10月1日から大きく変わりました。

この22日の木曜日の夜、6時30分ごろから、私達の友人の9名の方々が、「実際にどのくらいか自分達、大人が歩いてみないと分からない。担当の人、役員は歩いてもみない、見てもいないから、自分達が本当に歩いてみて、意見を言いたい」と言われ、それぞれのお仕事を終えてからの夜、白谷海水浴場から、ゆずりは学園まで歩き始めました。もう暗くて、車の灯りだけが道路を照らします。

風は出ていましたが、やや寒い日でした。海岸線をいくつもの懐中電灯が揺れながら近づいてきます。急ぎ足で歩いて、48分。大人でも48分かかったのだから、子ども達には60分かかることが分かったと、懐中電灯を置いて、汗びっしょりになって話して下さいました。

多くの人々の署名活動なども始める予定の中、そんな子ども達の海岸線を歩く姿に、株式会社リモデルの社長から、スクールバスを貸して下さることになり、今日の24日の納車式となりました。

リモデルの社長は「修学旅行にもお金がなく、制服も買えない子ども時代がありました。その時、先生方がお金を出し合ってくださり、修学旅行に行くことができました。その時の先生方にこのゆずりは学園の先生方が似ています。それで、今回の子供達が困っているのを見て、スクールバスの貸与を考えました」と話して下さいました。通学難民の窮状を救って頂きました。深く感謝いたしています。

中日新聞、東愛知新聞、東日新聞の記者の方、また国会議員薬師寺みちよ先生の秘書の方々が集まって下さり、納車式を始めました。

ちょうど、その納車式の時間、乗りたくても乗れないぐるりんバスが誰も乗っていない状態で、走って行きました。

この改正で、学園の前の道路を、1時間に1本の割合でぐるりんバスが通って行きます。せめてその中の1便だけでも田原駅からの直通便があればと、頼んだ8ヶ月でしたが、決定されたことだからもう戻れないの市役所からの返事でした。

私達の子ども達、生徒は何とか交通の足ができましたが、地元の人々の駅や病院に行く交通の手段はありません。もう一度この交通の手段のない方々と一緒に、交通の再編成をお願いしていきたいと思います。

スクールバス「ゆずりは号」

スクールバスの記事が10月25日新聞各紙に掲載されました！

中日新聞

学園に送迎ワゴン車
田原 豊橋の会社が貸与

豊橋市佐藤の設備工事業「リモデル豊橋」は二十四日、田原市野田町のフリースクール「ゆずりは学園」に十人乗りのワゴン車を貸与した。

学園での納車式で、木野立美社長が省名智産事長に車の鍵を手渡した。

一日に市が運営委託する路線バス「ぐるりんバス」が再編され、三河田原駅からの通学時間は五十分長いため、園に通う木野社長がワゴン車を購入し、善意で貸与を申し出た。

ワゴン車は三河田原駅からの送迎バスとして用する。

バスの再編で、学時間が減少すると懸念していた省名智長は「子どもたちの心安全な通学が確保き、ありがたい」とした。（角野峻也）

貸与されたワゴン車にさっそく乗り込む子どもたち＝田原市野田町のゆずりは学園で

ゆずりは学園へ送迎バス
保護者購入 無料で貸与
通学の足復活 理事長「感謝」
田原

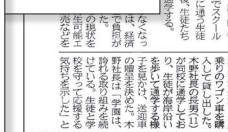
フリースクールなどを運営する、NPO法人ゆずりは学園（田原市野田町、省名智産理事長）は21日、同校へスクールバスの無償貸与を行った。同校に通う生徒の保護者が善意で貸与、今後、生徒たちはスクールバスに乗車して通学する。

なくなった。経済的に負担が大きくて、生徒の現状を考えると学校を続けられなくなる気持ちが強くなった」と行ったモデル豊橋（豊橋市佐藤）の木野英社長が、10人乗りのワゴン車を購入して貸し出した。

木野社長の長男（13）が同校に通っており、生徒が海岸いを歩いて通学する様子を見かけ、送迎車の提供を決めた。木野社長は「学園は、社会から取り残された子ども達の居場所。少しでも力になれればと思った」とした。

朝夕に生徒から「駅から学園まで歩いて1時間かかる」と聞いた。改行前に生徒らは、三河田原駅からの約20キロ、1500円の料金で通学。改行後は、ぐるりんバスと路線バスを乗り継ぐと480円の料金が必要となっていた。

そのため、ぐるりんバスの運行ルートに沿って、バス停間の距離を縮めて、約1キロの間隔にし、時刻表上の工夫で、約45分の通学時間を、約30分に短縮した。


送迎バスに乗り込む生徒を見守る木野社長㊧と省名理事長㊨（田原市、ゆずりは学園で）

東愛知新聞

スクールバスに役立てて
生徒の「足」に
無期限で貸し出す

再生可能エネルギー事業などを手掛ける「リモデル豊橋」（豊橋市、木野立美社長）が24日、フリースクール「ゆずりは学園」（田原市）に、最寄りのバス停から学園まで通徒歩通学する事で通学時間が大幅に増え、学習時間を増やしたいとして現在、同学園田原駅から学園まで貸与した。

木野社長は、長男が同学園に通っていることから「通学する子どもたちの安全と学習時間が確保されることが一番。真冬は海岸からの強風もあるとワゴン車を購入し、善意という形で貸与した。

スクールバス（10人乗り）は、渥美線三河田原駅～ゆずりは学園田原校の直通。学園職員が運転する。

省名理事長は「子どもたちの通学を支援していただき、安全な通学と勉強時間が確保されました」と感謝した。（千葉敬也）

省名理事長ら（左側）にスクールバスを貸与する木野社長㊨＝ゆずりは学園田原校で

東日新聞

東日本大震災 NPO法人 ゆずりは学園
5年目に入る震災支援

2014［4年目］

1/13●衣類　宮城仮設住宅
2/16●野菜　福島仮設住宅
3/15・16●田原の道の駅さんの協力でキャベツ450ケース、ブロッコリー120ケース、お米900キロ、そのほかの野菜、果物130ケース　仮設住宅（宮城、岩手、福島）
4/23●布生地　福島仮設住宅
5/1●甘夏みかん　仮設住宅（宮城、福島）
5/10●夏みかん、タマネギ　福島仮設住宅
6/9～12●宮城、福島へ訪問支援（野菜、おもちゃ）
6/21●ミニトマト　福島仮設住宅
7/9●ドライフルーツ　福島仮設住宅
8/18●そうめん段ボール5箱（長仙寺・医王寺より）　福島仮設住宅
9/25●夏野菜　福島蓬莱若枝幼児園
10/25●甘柿　福島蓬莱若枝幼児園
11/21●キャベツ100個　福島仮設住宅
12/4●みかん段ボール（各）10箱　福島仮設住宅、福島さくらみなみ保育園

2015［活動報告］

1/ 6●ミニトマト　福島仮設住宅
2/24●ふわふわソックス　福島仮設住宅
3/15●【支援物資】　◎キャベツ 530ケース　◎ブロッコリー 60ケース
◎その他野菜・果物 90ケース　◎お米 650kg
【支 援 金】　162,859円（運送・宅配代に使わせていただきます）
【支 援 先】　①福島県福島市　蓬莱仮設住宅
他仮設住宅（約1,100世帯）
②福島県南相馬市　牛越仮設住宅（約350世帯）
③福島県南相馬市
北町保育所・よつば保育園・聖愛保育園・八沢幼稚園
④宮城県石巻市相野谷　飯野川校仮設住宅（約70世帯）
⑤宮城県石巻市雄勝町　立浜仮設住宅（約20世帯）
6/13●梅2箱　福島仮設住宅
8/20●そうめん段ボール6箱（長仙寺・医王寺より）　福島仮設住宅

お知らせ

自閉症・アスペルガー等の「発達障害」の子を持つ親の会
ゆずりはの会（166回）
○日時／11月13日(金) PM1:30～3:00
○場所／ゆずりは学園
（毎月第2金曜日 12/11・1/8・2/12）

お問い合せ・連絡先
ゆずりは学園事務局
〒441-3421 田原市田原町池の原15-3
TEL:0531(22)3515 FAX:0531(22)7761
e-mail:kutsuna_ike@yahoo.co.jp
http://www.yuzuriha-gakuen.com/
http://ameblo.jp/yuzurihaschool/
http://ameblo.jp/kutsuna-diary/